

	授業科目	単位数	時間	対象学年	学期
	理学療法概論 A	2	30	PT 1年	前期
	担当教員	授業形態		主な講義室	
	藤井 昭宏	講義		502 教室	
目 標	<p>行動目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 理学療法士に求められる資質や適性・基本的態度を習得できる ・ 本校学生としての自覚を高めることができる ・ 理学療法の法律や位置づけ、流れを説明できる 				
授 業 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法学科オリエンテーション 2. 宿泊研修オリエンテーション 3. 理学療法士に求められる資質、適性、基本的態度 4. 3.に関するグループワーク 5. リハビリテーションと理学療法の歴史、定義 6. 理学療法を構成する各種技術の概要 7. 理学療法と障害 8. 科学的根拠に基づく医療（EBM）と理学療法 9. 理学療法の実際の流れ 10. 理学療法士の活躍の場について 11. 臨床実習について 12. 卒業生の講義（急性期病院） 13. 卒業生の講義（回復期病院） 14. 卒業生の講義（維持期病院） 15. 卒業生の講義（スポーツ領域） 				
教科書	<p>シンプル理学療法シリーズ 理学療法概論テキスト 第2版（南江堂） 宿泊研修のしおり（直前に配布） その他、必要に応じ資料を配布する</p>				
成 績 評 価 法	<p>成績評価は提出物および期末試験結果にて行う。</p>				
備 考	<p>理学療法概論 A・B はそれぞれ 1 科目として個別に試験を行い評価する。 12～15 の講義は講師の都合により、日程が変更になる可能性がある。</p>				

授業科目	単位数	時間	対象学年	学期
理学療法概論 B	2	30	PT 1年	後期
担当教員	授業形態		主な講義室	
藤井 昭宏	講義		502 教室	
目 標	<p>行動目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法の基礎的理論、対象について説明することができる ・理学療法の管理・運営についてグループワークで発表することができる ・本講義を通じて、自身の意見を建設的に述べられることができる。 			
授 業 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、前期理学療法 A の復習 2. 臨床実習の振り返り グループワーク 3. 世界の理学療法 4. 理学療法の基礎理論 1 5. 理学療法の基礎理論 2 6. 理学療法の基礎理論 3 グループワーク 7. 理学療法士に関する法律 1 グループワーク 8. 理学療法の対象に関する理解 1 9. 理学療法の対象に関する理解 2 グループワーク 10. 理学療法をとりまく環境 グループワーク 11. 理学療法のトピックス グループワーク 12. 理学療法における管理・運営 グループワーク 13. 理学療法関連分野に関するディベート 1 14. 理学療法関連分野に関するディベート 2 15. 後期のまとめ 期末試験対策 			
教科書	<p>シンプル理学療法シリーズ 理学療法概論テキスト 第 2 版 (南江堂)</p> <p>その他、必要に応じ資料を配布する</p>			
成 績 評 価 法	<p>成績評価は提出物および期末試験結果にて行う。</p>			
備 考	<p>理学療法概論 A・B はそれぞれ 1 科目として個別に試験を行い評価する。</p>			

授業科目	単位数	時間	対象学年	学期
理学療法評価法A	2	30	PT 1年	後期
担当教員	授業形態		主な講義室	
友原 望美	講義		502 教室／治療室	
目 標	<p>形態測定の方法、意義、目的が記述できるようになる。</p> <p>四肢・体幹の関節可動域の参考可動域、基本軸、移動軸が記述できるようになる</p>			
授 業 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法評価の目的・意義・検査の基本原則 2. 情報収集と情報管理 3. 形態計測① 形態計測の定義・意義・検査のポイント・体格の検査 4. 形態計測② 四肢長・肢節長 5. 形態計測③ 四肢周径 6. 関節可動域検査① 関節可動域検査の定義・意義・分類・検査のポイント 7. 関節可動域検査② 上肢① 8. 関節可動域検査③ 上肢② 9. 関節可動域検査④ 上肢③ 10. 関節可動域検査⑤ 上肢④ 11. 関節可動域検査⑥ 下肢① 12. 関節可動域検査⑦ 下肢② 13. 関節可動域検査⑧ 下肢③ 14. 関節可動域検査⑨ 体幹 15. 肩関節・股関節・膝関節・足関節の測定実施 			
教科書	<p>図解 理学療法検査・測定ガイド (文光堂)</p>			
成 績 評 価 法	<p>筆記試験を期末に実施し評価する。</p> <p>理学療法評価法A・B・C・Dの出席、成績はそれぞれ1科目として個別に取り扱う。</p>			
備 考				

授業科目	単位数	時間	対象学年	学期
理学療法評価法B	2	30	P T 1年	後期
担当教員	授業形態		主な講義室	
川崎 裕史	講義		502 教室／治療室	
目 標	・徒手筋力テストの段階づけ・検査肢位について説明できる。			
授 業 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・徒手筋力テストの原理 2. 上肢の徒手筋力テスト① 3. 上肢の徒手筋力テスト② 4. 上肢の徒手筋力テスト③ 5. 上肢の徒手筋力テスト④ 6. 上肢の徒手筋力テスト⑤ 7. 頸部・体幹筋の徒手筋力テスト① 8. 頸部・体幹筋の徒手筋力テスト② 9. 下肢の徒手筋力テスト① 10. 下肢の徒手筋力テスト② 11. 下肢の徒手筋力テスト③ 12. 下肢の徒手筋力テスト④ 13. 下肢の徒手筋力テスト⑤ 14. 姿勢別徒手筋力テスト実施① 15. 姿勢別徒手筋力テスト実施② 			
教科書	<p>新・徒手筋力検査法 原著第9版（協同医書出版社） 隨時、資料を配付する。</p>			
成 績 評 価 法	<p>期末テスト、小テスト、実習態度を総合的に評価する。 理学療法評価法A・B・C・Dの出席、成績はそれぞれ1科目として個別に取り扱う。</p>			
備 考	<p>それぞれの筋の起始・停止・作用・神経支配を理解して授業に臨むこと。</p>			

授業科目	単位数	時間	対象学年	学期
日常生活活動 A	2	30	PT 1年	後期
担当教員	授業形態		主な講義室	
川崎 裕史	講義		502 教室	
目 標	<p>日常生活活動（ADL）の概念を認識し、</p> <p>①理学療法士として必要な ADL 評価の手法や特徴を説明できる</p> <p>②自助具および福祉機器の名称と使用目的を説明できる</p> <p>③身の回り動作について分析し、必要な能力と関連付けて説明できる</p>			
授 業 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. ADL、IADL の概念・意義・範囲 2. 国際生活機能分類 3. 日常生活の評価① バーセルインデックス 4. 日常生活の評価② FIM 5. 日常生活の評価③ さまざまな ADL 評価法 6. 日常生活の評価④ 動作分析 7. 起居動作 8. 補装具① 杖 9. 歩行指導 10. 補装具② 車椅子 11. 車椅子駆動と援助方法 12. 身の回り動作 13. リハビリテーション支援機器と住環境 14. 自助具とコミュニケーション 15. まとめ・症例検討(PBL) 			
教科書	<p>シンプル理学療法シリーズ 日常生活活動学テキスト 南江堂</p> <p>その他、必要な資料を適宜配布する。</p>			
成 績 評 価 法	<p>期末試験、課題、授業態度などにより総合的に評価する。</p> <p>日常生活活動 A、B はそれぞれ個別に評価する。</p>			
備 考				

授業科目	単位数	時間	対象学年	学期
運動療法概論 A	2	30	P T 1年	後期
担当教員	授業形態		講義室	
加藤 善範	講義		502 教室/機能訓練室	
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動療法を実施するために医学的根拠に基づいた適切な方法を説明できる。 ・ 症例に適切な運動療法のプログラムを立てることができる。 			
授 業 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動療法の概要、自動運動と他動運動 2. 等張性収縮と等尺性収縮、運動療法の禁忌 3. 運動の必要性と効果、運動療法の順序 4. トレーニング理論①事前準備、リスク管理 5. トレーニング理論②体力測定と運動プログラム立案 6. トレーニング理論③体力測定と運動プログラム立案 7. トレーニング理論④運動プログラムの効果判定 8. 筋肉の解剖生理・運動療法による効果 9. 筋力トレーニングの基礎的原理 10. 筋力維持増強運動の理論と実際 11. リラクゼーション、呼吸法 12. 関節可動域練習①肩甲帯・肩関節 13. 関節可動域練習②肘関節・前腕・手関節 14. 関節可動域練習③股関節・膝関節・足関節 15. ストレッチング 			
教科書	<p>シンプル理学療法学シリーズ 運動療法学テキスト（南江堂） その他、随時資料を配布する。</p>			
成 績 評価法	<p>期末試験により評価する。 運動療法概論 A、B の出席・成績はそれぞれ 1 科目として個別に取り扱う。</p>			
備 考				